

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年7月15日～7月21日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年7月24日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジア「議会」が「2013年国家予算案」の修正を承認(16日)

・2013年の歳入・支出は70億4656万6100ルーブル。

▼トルコに住むアブハズ人がトルコ政府に対してアブハジアとの輸出入禁止の撤廃を請願(22日)

・「グルジアが黒海の国際水域でトルコ商船に対して海賊的な行為を行なっている」として、政府によるアブハジアとの輸出入禁止を直ちに撤廃することを請願。

【南オセチア】

▼社会・経済協力についての「ロシア・南オセチア政府間委員会」第8回会合が開かれる(19日)

・モスクワを訪れたフガエフ・南オセチア「首相」とフロポニン副首相・北コーカサス連邦管区大統領全権代表が協力議定書に署名。

2. 外 政

▼欧州議会防衛・安全保障委員会の議員5名が審理前勾留下のメラシヴィリ前首相を訪問(16日)

・リセク議員(ポーランド)は、「メ」前首相が政治的理由で審理前勾留を受けているとして政府を批判。ダンジャン議員(仏)は、「メ」前首相が家族との面会を許されていないことについて失望しているとコメント。

▼パンジキゼ外務大臣が米国訪問(16日～21日)

・パンジキゼ外務大臣とともにクビラシヴィリ主任検察官、与党連合「グルジアの夢」議員4名が米国を訪問。

・19日、「パ」外務大臣とジャパリゼ国会外交委員長がワシントンでバーンズ国務副長官と会談。グルジア外務省によれば、二国間の戦略的パートナーシップ、グルジア国内の政治状況、10月の大統領選挙、対露関係などについて話し合った。

・パンジキゼ外務大臣とオノプリシヴィリ国会財務・予算委員長はサピロ米国次席通商代表と米国・グルジアの自由貿易協定の可能性などについて議論した。

・「ク」主任検察官はメイチェン・ワシントンD.C. 検察官や保護監察局の代表者らと会談。

・訪問団は他にもマケオン下院軍事委員長ら多くの下院議員や、マケイン議員、ルビオ議員ら上院議員と会談。

▼オハニャン・アルメニア国防大臣がグルジアを訪問(17日～18日)

・イヴァニシヴィリ首相、アラサニア国防大臣、ウスバ

シヴィリ国会議長と会談。

▼イヴァニシヴィリ首相がリトアニアとポーランドを訪問(18日～19日)

・18日、リトアニアを訪問。グリボウスカイト大統領およびブトケビチュウス首相と会談。会談ではヴィリニウスで11月に予定されているEUの東方パートナーシップ首脳会議に焦点が当てられた。「プ」首相は「グルジアとの連合協定はEUの優先課題の一つである」と述べた。

・19日、ポーランドを訪問。トゥスク首相や国会議長らと会談。トゥスク首相は「グルジアでは政権が交代したが、両国間に築かれた友好関係は変わらない」として、ヴィリニウスでの首脳会談に向けたグルジアへの支持を約束した。

▼オニシチェンコ露消費者保護局局長・主任保健医がトビリシ郊外につくられた生物学研究所について懸念を表明(20日)

・トビリシ郊外にあるルーガー記念生物学研究所は米国が1億5千万ドルを出資して建設された。グルジア国立疾病管理・公衆衛生センターに属する。グルジアおよび米政府によれば、研究所は危険な病原体の探知や伝染病の監視を通じて公衆・動物の健康を守ることを目的としたものである。

・19日、露外務省は「露国境付近での米国国防省による生物学関連の活動は深刻な懸念を引き起こしている」との声明を発表。

・20日、「オ」長官はインターファクスのインタビューで、同研究所が「強力な攻撃的潜在性」であるとして、「グルジアのワインや農産物のロシアへの輸入の拡大に鑑みて、グルジア国内にある米海軍の強力な研究所の存在についての我々の警戒は高まる一方だ」と述べた。

3. 内 政

▼米民主党国際研究所(NDI)が6月に実施した世論調査の結果を発表(15日)

・「グルジアが正しい方向に進んでいる」と答えた回答者は45% (前回3月の世論調査では58%)。

・国が直面している最も重要な問題として挙げられたのは「失業」「領土一体性」「医療制度」など。

・EUおよびNATOへの加盟の支持はそれぞれ79% (前回76%、以下同様)、73% (73%)。

・現在のグルジアが「民主主義的である」とする回答者は38% (43%)。「民主主義的でない」とする回答者は46% (38%)。

・ロシアが「グルジアにとって現実の脅威である」とし

た回答者は37% (26%)。「脅威であるが誇張されている」とした回答者は34% (42%)。対露関係の現状に不満である回答者は63% (49%)。

- ・与党連合「グルジアの夢」(GD) および UNM を「好ましい」とした回答者はそれぞれ52% (60%)、10% (10%)。
- ・次の大統領にマルグヴェラシヴィリ氏 (GD)、未定の UNM 候補者、ブルジャナゼ氏 (「民主運動・統一グルジア党」党首) を望む回答者はそれぞれ29%、10%、5%。
- ・主要な政治家30名について「好き」か「嫌い」かを質問した結果、「好き」の割合が最も高いのはイヴァニシヴィリ首相で69% (75%)。他に、ウスパシヴィリ国会議長61% (66%)、バクラゼ UNM 院内総務48% (48%)、マルグヴェラシヴィリ氏 (45%)、サーカシヴィリ大統領23% (25%) など。

▼ブルチュラゼ氏が大統領選挙への不出馬を表明(15日)

・メディアでは、オペラ歌手で慈善家でもあるパアタ・ブルチュラゼ氏の大統領選挙への出馬が取りざたされていたが、本人が「出馬しない」旨の声明を発表。

▼教育・科学大臣が交代(16日)

・与党連合「グルジアの夢」(GD) の大統領選候補であるマルグヴェラシヴィリ大臣は、法律上、大統領選挙に立候補するために大臣を辞任する必要はないが、選挙運動への公的資金の流用に対する疑念を招かぬように辞任すると説明。

・14日、「マ」氏は教育・科学第一次官のタマル・サニキゼ氏が次の大臣になると発表。18日、イヴァニシヴィリ首相により任命された。

・サニキゼ氏は2012年10月の議会選挙まで、「マ」氏が学長であったグルジア公共政策大学(GIPA)の財務部長を務めていた。

▼クビラシヴィリ主任検察官がジヴァニア元首相が死亡した事件について言及(18日)

・「アメリカの声」のインタビューで、ジヴァニア元首相の死亡事件に関する調査が進んでいるとして、「いつかは特定できないが、2005年2月3日に何が起こったのかについていずれ人々は詳しい答えを得るだろう」と述べた。

▼ボルクヴァゼ議員がUNMを離党(19日)

・ボルクヴァゼ元国会副議長がUNMを離党し無所属に。
・2012年10月の議会選挙でUNMは65議席を獲得したが、その後離党する議員が相次ぎ、現在52議席。GDは現在86議席を占めている。

▼サーカシヴィリ大統領が「イヴァニシヴィリ首相がロシアに保有していた財産を引き換えにロシアから20億ドルを受け取った」と発言(20日)

・大統領官邸での演説で発言。ロシアは財産の市場価値よりもはるかに大きな金額を「イ」首相に渡し、「イ」首相に「サ」大統領を失脚させようとしている、と主張。

・「サ」大統領はロシア政府について、政府への支持の低

下と経済の悪化で「困難な状況」にあり、「想像するより早く変革が起きるだろう」として、ロシアの民主化に対する期待を述べた。

▼ズグディディおよびバトゥミで行なわれたUNMの討論会に住民が抗議(20日、21日)

・UNMは大統領選の候補者を党内投票で決めるために各地方を回って討論会を開いており、20日にズグディディ、21日にバトゥミで討論会が行われた。27日にトビリシで行なわれる最後の討論会の後に党の候補者が発表される予定。

・党内候補者同士の討論の後に投票が行われ、これまでの討論会と同様、ズグディディでもバトゥミでもバクラゼ院内総務・前国会議長が最も多くの票を集めた。

・どちらの討論会でも、抗議のために会場の外に集まった人々が、到着するUNMのメンバーに対して怒声を浴びせ、さまざまな物を投げた。ズグディディでは記者1名が負傷。

・内務省の発表では、「フーリガン行為」によりズグディディで12人、バトゥミで2人が逮捕され、各自100ラリの罰金を払って釈放された。

4. 経 済

▼6月の工業製品生産者物価指数(15日)

・前月比 -1.6%。前年同月比 -1.5%。

▼インド・タタグループの代表団がイヴァニシヴィリ首相と会談(16日)

・会談にはカラゼ・エネルギー・天然資源大臣とゴガラゼ環境保護大臣が同席。タタグループはアチャリスツカリ川の水力発電所の建設プロジェクトを進めている。その他の投資案件の見通しについても検討。

▼チャクラバルティ欧州復興開発銀行(EBRD)総裁がグルジアを訪問(16日-18日)

・イヴァニシヴィリ首相、ハドゥリ財務大臣、クヴィリカシヴィリ経済・持続的開発大臣、カラゼ・エネルギー・天然資源大臣、カダギゼ国立銀行総裁らと会談。

・これまでEBRDはグルジアに対し、さまざまな分野の158のプロジェクトに約18億ユーロを投資している。

5. そ の 他

▼イタリアでグルジア人犯罪集団が逮捕される(19日)

・ローマおよびその近郊で強盗を繰り返していたグルジア人37名のグループを逮捕(うち3名が女性)。イタリア警察は約200万ユーロ相当の盗品を押収。

▼グルジア西部で大雨による被害(19日-20日)

・グルジア西部で数日間雨が降り続き、サメグレロ地方やグリア地方の黒海沿岸部で多くの家屋が浸水した。